

## 貸借対照表、行政コスト計算書、純資産変動計算書、資金収支計算書について

### 1 作成にあたり

現在、当広域連合及び国・県・市町村（上水道事業などの公営企業会計を除く）が採用している公会計は、現金の出入り（フロー情報）に着目した「現金主義」を基本としています。

しかし、この会計制度には、長年にわたり蓄積された資産や負債のストック情報や、行政サービスに要したコスト情報を把握しにくいなどの問題点があり、最近では「発生主義」を基本とする企業会計的手法を導入する動きが広がっています。

そこで、当広域連合では、より効率的な財政運営を目指すため、総務省が示した統一的な作成指針に基づいて、貸借対照表、行政コスト計算書、純資産変動計算書、資金収支計算書を作成しました。

### 2 各表の概要

#### (1) 貸借対照表

土地や建物などの財産（資産）の合計と、その財産を築くために使ったお金の調達方法（負債・正味資産）の合計を、年度末時点で左右に並べた表であります。

表の左（借方）と右（貸方）に対照して表示していることから、「貸借対照表」と呼ばれており、また、資産と負債・正味資産の合計が常に一致していることから、「バランスシート」とも呼ばれています。

#### (2) 行政コスト計算書

貸借対照表に計上されない（資産としてストックされない）、人的サービスや給付サービスなどの行政サービスにかかった経費（コスト）と、それに充てたお金（収入）を、1年間の総額で示した表であります。

一般の企業における「損益計算書」に相当するものです。

#### (3) 純資産変動計算書

1年間における、資産の増減を示した表であります。

#### (4) 資金収支計算書

1年間における現金・預金などの流れを示したもので、どれだけの現金をどのように調達し、どのような目的にいくら使い、最終的に手元にいくら残っているかが把握できる表であります。現金の出入りを把握する表であるため、「キャッシュ・フロー計算書」ともよばれています。

なお、現金の出入り（フロー情報）に着目している点では、当広域連合及び国・県・市町村（上水道事業などの公営企業会計を除く）などの公共団体が従来から作成している、歳入歳出決算書に類似しています。

一般企業及び公共団体の公営企業会計では、キャッシュ・フロー計算書よりも損益計算書が重視されていましたが、近年ではキャッシュ・フロー計算書も財務諸表の一つとして開示されるようになりつつあります。